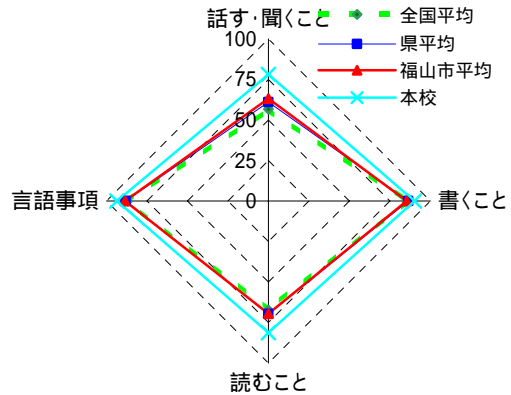


国 語

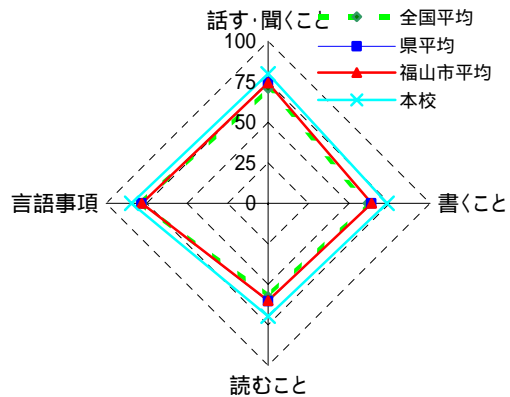
全国学力・学習状況調査正答率（A問題）

全国平均 81.7% 県平均 83.3%
 福山市平均 83.9% 学校平均 91.1%



全国学力・学習状況調査正答率（B問題）

全国平均 62.0% 県平均 65.0%
 福山市平均 65.0% 学校平均 73.0%



全国学力・学習状況調査に関する校内研修の内容

全問題を教職員が解く。

「新聞記事を書く」(読む能力・書く能力)の問題の趣旨について確認する。

(複数の資料を活用して要約したり、自分の考えをまとめたりして書く問題)

<手だて>

- ・読む力をつけるために、文章の組み立てを考えて、内容をつかむ学習を大切にする。
- ・自分の考えを与えられた条件にもとづいてまとめる活動も取り入れる。

重点課題 (: 全国学力・学習状況調査)

「書くこと」「読むこと」の領域では、取り上げた事実がどのような理由で述べられているかについての的確に読み、そのわけを要約することに課題がみられた。前後の文脈から事実を裏付ける理由や根拠を自分の言葉で言い表すことが苦手な児童が多い。

「書くこと」の領域では、目的に応じて収集した情報の中から、必要な事柄をとりだし、表現様式に即してまとめることに課題が見られた。

「読むこと」の領域では、2つの文章を比べて読み、書き方の良さや工夫を評価する問題に課題があった。

重点課題・校内研修に対応した改善する指導内容及び方法

「読む力」をつけるために、

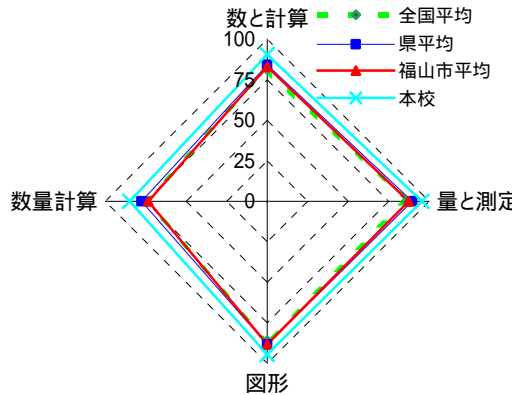
- ・文章をじっくり読んで、前後の文脈から理由を明らかにして話したり、書いたりする活動を大切にする。
- ・様々な文章や資料を読む機会を設け、難しい語句を自分で調べたり自分の考えと比べて感想を書いたりする活動を取り入れる。
- ・文と文のつながりや段落相互の関係や意味のまとまりを意識して書く指導をしていく。

「書く力」を高めるために、

- ・礼状・依頼状やスピーチの原稿など、相手や目的を意識した様々な形態の文章を日常的に書かせることで記述力を高める。
- ・記録や報告をまとめる活動を通して、経験した事実などを客観的に書いたり、自分の考えたことや経験から得たことを自分の言葉で書く力をつけていく。

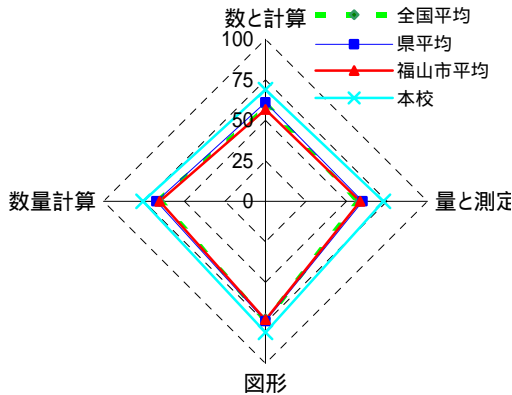
全国学力・学習状況調査正答率（A問題）

全国平均	82.1%	県平均	84.7%
福山市平均	82.6%	学校平均	91.1%



全国学力・学習状況調査正答率（B問題）

全国平均	63.6%	県平均	65.0%
福山市平均	62.9%	学校平均	73.6%



全国学力・学習状況調査に関する校内研修の内容

全問題を教職員が解いてみる。
図形の領域「事象の観察と判断」の問題の趣旨について確認する。
（与えられた情報の中から必要な情報を選択して筋道を立てて考える問題）

<手だて>

- ・作業的、体験的な算数的活動を多く取り入れ、具体物の操作から自分の考えをまとめることを大切にしていく。
- ・「なぜそうなるのか」という思考過程を大切にしたい授業を仕組む。

重点課題（ : 全国学力・学習状況調査）

「量と測定」の領域では、与えられた情報から必要なものを選択して解決することに課題があった。

- ・平行四辺形の高さを過情報の中から見つけることが難しかった。
- 「数量関係」の領域では、与えられた条件をもとに情報を選択し、筋道をたてて考え、その考えを説明することが不十分であった。
- ・与えられた条件をじっくり読まず、十分理解していない。
- ・割合の理解が不十分のため、正確な答えを導くことができなかった。

「数と計算」の領域では、計算の工夫を理解し、それを用いて問題の解決をすることが不十分であった。

- ・乗法の結合法則の意味が十分理解できていないため活用できない。

重点課題・校内研修に対応した改善する指導内容及び方法

「量と測定」の領域では、

- ・必要な情報を取捨選択して、問題を解決する活動を多く取り入れる。
- ・式の意味の理由付けができるようにさせる。

「数量関係」の領域では、

- ・日常生活においてもよく使われる算数用語（20%引き、3割増量）などが確実に理解できるように繰り返し指導していく。
- ・間違えたとき、つまずきの原因について振り返らせ、友だち同士で話し合う活動を取り入れる。

「数と計算」の領域では、

- ・計算の仕方を自分たちで発見したり工夫したりする活動を大切に、数を多面的にみる見方を育てるようにする。
- ・表現力をつけるために、言葉や図や式などを用いて説明する活動を日常的に行う。